

宮崎県防災会議地震専門部会（令和7年度第1回）議事要旨

1 会議の概要

日 時：令和7年8月7日（木）13：30～15：30

場 所：宮崎県庁防災庁舎4階 防43号室

（対面・オンラインのハイブリッド開催）

出席者：馬場委員、早田委員、原田委員（議長）、福林委員、丸山委員、村上委員、
山下委員、大嶋委員（代理）、島川委員（代理）、桑畑委員（代理）、
晴山委員、栄福委員、津田委員

2 議事要旨

（1）津波浸水想定について

事務局からの説明内容

- ・ 計算条件等について再度説明

（浸水面積について）

- ・ 浸水深が30cm以上となる面積は、県全体で340ha（2.5%）増、延岡市で70ha（2.3%）増、高鍋町で40ha（6.5%）増、新富町で20ha（3.5%）増、宮崎市で170ha（4.5%）増、串間市で100ha（9.2%）増となった。
- ・ 串間市、延岡市、宮崎市で目立って浸水面積が増加した要因としては、地形データや潮位の更新が影響していると考えられる。
- ・ 令和2年国勢調査の人口分布を用いて、現行想定と今回調査に対する影響人口（30cm以上浸水エリア）を算定し、比較したところ、延岡市、高鍋町、串間市で津波影響人口も増加傾向にある。

（浸水深について）

- ・ 浸水深の差分については、全体の27%が-5cm～+5cmの範囲となった。
- ・ 地域によっては、潮位の変更が浸水深増に影響したと考えられる。
- ・ 浸水深の増加が特に大きかった島野浦島（延岡市）、都井岬（串間市）については、地形データ（標高）の更新が影響したと考えられる。
- ・ 津屋原沼（宮崎市）周辺は、今回調査で新たに堤防施設を盛土堤防としてモデル化し、堤内地の浸水深は減少傾向になっており、ハード対策の効果が見られた。

（アニメーションについて）

- ・ 津波が繰り返し押し寄せる様子や河川を遡上し浸水が広がる様子などを分かりやすく示すために、12の計算領域で津波浸水アニメーションを作成した。
- ・ 今後、ナレーションなども付けて、啓発等に活用していきたい。

委員からの主な意見

- ハード整備の効果で津屋原沼（宮崎市）周辺の浸水深が低くなっているという説明があったが、そのように言い切れるのか疑問があるので、時間経過を見るなどして、もう少し詳細な分析が必要ではないか。
- L2 想定で耐震対策を実施している施設についても今回の想定では耐震性がないものとして取り扱われている。その点、もう少し丁寧に説明してほしい。
- 今後、津波避難等に関する計画を考える際には、隣県との調整も考慮して欲しい。
- アニメーションについて、もっと広い領域での動画もあると、第2波、第3波が後から来ることがより分かりやすくなるだろう。
- アニメーションは10秒間隔のデータを用いた方がよりきれいに津波を見ることができると思う。

（2）令和6年度津波避難等に関する県民意識調査について

事務局からの説明内容

- ・集計結果（一部抜粋）
- ・結果の分析や課題として感じていること等

委員からの主な意見

- アンケートの設問等について分かりやすい表現になっている。
- 防災訓練の参加率が落ちているのは、コロナ禍で地域の訓練が中止や縮小となった影響があるかもしれない。行政が地域や学校等での訓練をサポートしていくことも大事。
- 様々な観点からクロス集計をして更なる分析をしてみてもどうか。
- 徒歩避難の原則はあるものの、車両による避難をする人が一定程度いる前提で計画・対策を考えるべきではないか。

（3）被害想定・減災計画の見直しについて

事務局からの説明内容

- ・現行の被害想定及び減災計画の概要
- ・見直しに係る今後の方向性等

委員からの主な意見

- 国と県の想定で人的被害の数がなぜ異なるのか分からないので、算定に用いた早期避難率も記載すべき。